

## 飯能・入間まち歩き活動報告

日 時 ●2011年6月19日(日)13時10分～17時(オプション10時05分～)

企画趣旨● 今回のまち歩きでは、飯能の旧市街地に残る店蔵や洋館、長屋などの歴史的な建物を見て歩き、飯能のまちの魅力を探ること。併せて、旧市街地近くに残る、フランク・ロイドライトの愛弟子、遠藤新の最後の作品「旧平岡レース事務所棟」を見学すること。そしてまち歩き後に、こうした歴史的資源を活かした商店街づくりやまちづくりについて、地元の皆さんと意見交換できればと企画しました。

旧平岡事務所棟は市の事情で内部見学ができませんでしたが、遠藤新の孫、遠藤現さんから事務所棟のスライドを見せていただきお話を伺うことができました。

また、オプション(午前の部)企画では、旧平岡レースと同時代の近代産業遺産である旧武蔵織物同業組合仏子模範工場(後の埼玉県入間繊維工業試験場)の施設をリニューアルして誕生した入間市文化創造アトリエ AMIGO を見学し、地元 NPO による活用事例を知ることができました。

まち歩きのコース●午後：飯能駅→佐野家→織物協同組合→佐野医院・大野家・双木家→小川家・師岡家→旧平岡レース事務所棟→田口家・畑屋・小槻家→割烹八千代→見世蔵絹甚(意見交換会)

オプション午前：仏子駅→入間し文化創造アトリエAMIGO→仏子駅→飯能駅→たけまつ(昼食)

参加者●井手幸人、宇都宮惇、\*大竹亮、大森享、岸本真弓、\*栗原徹、\*呉祐一郎、\*呉美樹、重永真理子、高松博志、\*椿真吾、中村大輔、双木洋介、根立隆、根立範子、野口泰三、\*平野隆、藤崎秀也、\*\*古里実、細川大輔、町田信隆、町田正江、宮尾節子、\*毛須知之、山中洋子、ほか(\*印はオプションから参加、\*\*印は今回のコーディネーター)、

意見交換会のみ参加：吉田行雄商店会長さん、遠藤現さん、浅野雅俊さん

案内● 埼玉県建築士事務所協会いるま西支部 市野彰俊さん(午後の部)

NPO 入間市文化創造ネットワーク 沢田勉さん(午前の部)

共催●まち歩きグループ TEKU-TEKU、建築学会埼玉支所

### 【参加者による評価】

(評価点の計算:とても良いA=5点、良いB=3点、普通C=1点、良くないD=1点とした平均値)

### 1 飯能旧市街地を歩いた感想 AAAAAAABBBBBBBBBBBBBB-【3.8】

A: 街の生い立ち、歴史が感じられる建物が点在し、その水準の高さもかなりのもの。まち全体の魅力が伝わってきました。

A: 表通りは昭和の中に大正、明治がちらほら、一歩中に入ると江戸期の立派な建物があるという、各時代の香織を味わえる「まち」という印象をもちました。

A: 市野さんのガイドが、とても分かりやすく、楽しかった。現存する愛すべき建物が、活用されていて、家主さんに感謝したい。

A: 駅から歩いて行ける範囲に旧市街を偲ぶ建



物や豊富な自然があって素晴らしい。往時を偲ぶことができる文化的資源が各地に点在していて素晴らしい。

A：市野さんの飯能を愛する情熱がとてもよく伝わりました。

A：古民家の説明が聞けたので飯能のすばらしさが一段とわかり良かったです。昔の反映がしのべれます。

A：江戸、明治、昭和の歴史ある建物がここかしこに残り、活用されているものもあるのがうれしい。商店街が意外と元気であり、路地も楽しい。

A：－

B：商家や洋館の立派な建物が残り、往時の繁栄ぶりを彷彿とさせる。また、多くの老舗商店が個性ある経営を続けており、魅力的な商店街となっている。脇道に入ると、多くの長屋風の住宅が庶民的な親しみを感じさせる。その中に、町家や蔵を転用した新しいお店が点在し、変化の兆しも見られる。しかし、残念ながら現時点では、それらの価値が十分に知られ、活かされるまでには至っていないし、空き地や駐車場も目立つ。今後の可能性に大いに期待したい。

B：町家や蔵、看板建築など、街の歴史が感じられる建物がかなり残っており、それらの建築としての質も高い。区画整理がされていないため、昔ながらの路地が多く残っているのが、さらに味わいを深めている。

B：江戸、明治の往時の繁栄を彷彿とさせる歴史的な建物、特に民家が数多く現存し、しかもほとんどが現役として使用されていること。

B：蔵を改修して、飲食店やスタジオに活用しているので、建物を大切にしているところが良かった。区画整理などで道路の形状がほとんど変わらず、路地がたくさんあるのが魅力的で歩くのにちょうどよい幅員であった。和洋風両方の建物が点在していて歩いていて飽きなかった。

B：古いたてもものを使って、ちゃんと営業している。

B：古い建物が、現在も生活の一部として残っているところが良い。



B：小学生のときの遠足のイメージでは、「山と川」の飯能だったのですが。実は埼玉県内でも有数の大都市だったことを初めて知りました。

B：これまでエコツアー等で何度も歩いた道のりでしたが、市野先生の解説を聞きながら散策してみると、また違った角度から自分の町の良さを感じることができました。

B：…というか、まち歩きを楽しめる街だと知ってびっくりしました。絹織物、木材の集散地として栄えた往時を思い起こさせるような興味深い建物がまだ相当に残っていて、誇るべき資産です。

B：歴史が残っていて良かった。歴史を保存することが行政の課題だと思う。

B：もう少し内部が見られる場所が多い方が良かった。

B：蔵が歩き回れる範囲内に点在している。

B：蔵が良い間隔で点在しているので、川越などとは違った印象で良かった。

## 2 特に魅力的だったところ(箇所名と理由を箇条書きで記入ください。いくつでも可。)

○店蔵絹甚：このようなすばらしい町家が保存公開されているのはすばらしい。しかも、商店街が管理を引き受けているのがいい。大黒柱の太さと美しさに驚いた。

○店蔵絹甚：雛飾りお宝展でも活躍したとのこと。商店街が管理しているのが良い。まち歩きの休憩所、案内ステーションとして、さらに活用されることを期待する。

○店蔵絹甚：市民に開かれた通年観光の拠点として活用されている。

○店蔵絹甚：古さ、重厚さ、屋根裏まで見えるのに驚きです。

○絹甚の店蔵：町家のように見えるのに、蔵のつくりで珍しいと思いました。活用しながら保存できており、伝統的建築のよい保存例だとおもいます。

○絹甚：立派な蔵作りの建物がきちんと補修され、歴史を伝えてくれているのみならず新たな文化も発信している

○絹甚：広小路交差点にも近い商店街にあり、まちなかに残る歴史的な建物群の中央に位置し、絹織物の問屋でもあったという象徴的なすばらしい造りの建物です。

○絹甚：建物の中に入れて、めずらし図太い柱が見られた。

○絹甚：－

○師岡家：今日に至るも寸分の狂いも生じていない素晴らしい造り。いい仕事してます

○師岡家：家の中も見せてくれたこと。いつもきれいにされていて、「どうぞ、どうぞ」という感じだ。



○師岡家：家の中まで上がらせていただいて、ありがとうございます。生活に不便を感じているかもしれませんが、今のライフスタイルを維持してください。

○師岡家：内部が見られて良かった。

○師岡家：－

○大野家、小川家：間が空地（駐車場）になっているので、町屋の形態が非常によくわかる

○材木商の建物：先人の知恵を見た。こういう工夫を新しい建物にも取り入れたい。

○土肥歯科医院：市野さんに言われて気付いたモダニズム建築

○土肥医院：今まで気づいていなかった、玄関の屋根や窓に、たまんなく可愛い細工があった！

○土肥医院：形といい、色彩といい、一度見たら忘れられないユニークな洋館。

○土肥医院：青の木造建築が気に入りました。

○織物組合：ピンク色に塗られた洋風モダンな建物にはどこか惹かれてしまいます。

○織物組合：和風洋館と土蔵の組み合わせがいい。現役で使われているのもいい。

○吉川理髪店：看板建築という言葉を知りました。なんか、映画のセットのみたい。建物の顔(全面)全体が、店の看板になっていて、レトロな雰囲気が良かった。

○吉川理容所：商店街の角に看板建築がいい雰囲気で佇んでいる。

○双木家：塀の外からでしたが、こんな豪華なお屋敷、めったに見られない！

○料亭八千代：メニューが凝っていて良かった。とてもリラックスできました。

○料亭八千代とそのお隣、高島屋：残念ながら今回食事はできなかったのですが、こんな立派な料理屋があることが文化ですね。

○八千代と高島屋：老舗料亭両店が並び、一帯の



景観を創っている。間の路地もいい。

○料亭高島家、キッチュデザインの料亭八千代、気になる長屋がある通り：この町の繁栄時の雰囲気を感じることができる魅力的な空間でした。

○そば工房 時：－

○銀座通り商店街：昭和の時代の商店街のイメージであり、各々の店舗が今でもけっこう残っているの  
がいい。

○銀座商店街：いわゆるチェーン店でない地元のお店が残っているのがうれしい。

○中清商店：広小路交差点角に江戸時代以来の白壁土蔵が建つ景観がすばらしい。

○大野家(銀河堂)：表から裏まで延々と町家づくりが続いている。カフェだというので、一度入ってみたい。

○酒田屋商店+スタジオくら：裏通りからこのような転用が始まりつつあって楽しい。

○小川医院：住宅地の一角に立派な洋館の医院が佇み、街の風格を形作っている。

○うどん古くや：土蔵をそのまま使っている。中に入ってみたくなる。

○丸屋酒店：今回は立ち寄らなかったが、前回拝見して、店の奥にある豊富な銘酒群に感嘆した。何回も通いたくなった。

○吉田屋呉服店：店主が反物に囲まれて仕事をしている昔ながらの呉服店を初めて見た。

○住田屋つけめん：いかにも美味しそうだ。隣のマンションが「時代の段差」を痛感させる。

○うなぎ畑屋：前から見ると小さいようだが、横から見ると木造3階建ての迫力がある。

○篠原家付近：裏通りに長屋、町家、土蔵などが並び、今も住まわれているのが心強い。

○創作懐石料理たけまつ：河原に面した絶好の場所で、美味しいB級グルメの「すい〜とん」をいただけてラッキーだった。



○たけまつ：飯能すいーとんが具がたくさん入っていておいしかった。

○諏訪八幡神社からの入間川の緑と清流の景観：建物だけでなく、自然と調和した歴史が飯能の魅力だと思います。

○入間川の飯能河原：新緑が風にそよぎ、せせらぎが岩に砕け、とても風情があった。

○旧平岡レースの桜並木と飯能第一小学校の紫陽花：道を挟んですばらしい6月の風景だった。来年も続くことを願う。



### 3 旧平岡レース事務所棟について

(1)旧平岡レース事務所棟の評価(ABCD)と理由 **AAAAABBBBCCCCCCC—【2. 8】**

A：遠藤現さんの解説とスライドでわかった見事な配置計画。

A：しっかりした形で残っていて、いくらでも活用方法はあると思う。

A：事務所という性質から、建物の外観には目立った特徴は見出せなかったが、内部の造りにさまざまな工夫を凝らしていることの説明を受け、その価値を再認識した。

A：残念ながら内部を見ていないが、外観とスライド映像からでも、丁寧に考え抜かれて作られた建築としてのすばらしさが十分に伝わってくる。旧平岡レースの地域産業としての意義をも考慮すれば、その価値はさらに高い。5月に見た土蔵や倉庫、桜の巨木も品格があった。食堂棟や庭園も含めて、群建築として極めて高い水準であったであろうことが想像できる。



A：—

B：構造もおもしろく、建設当時その中で働くのは楽しかったのではと思いました。

B：歴史的に価値のある建物なのかもしれませんが、見学できないのが残念であった。

B：建築単体としての外観を見る限り、いまひとつピンとこなかったが、シュロなどの木々が残っていたときの写真を見ると、建物と木々が一体化してデザインされていることがよくわかった。

B：一本の心柱が小屋組を支える空間に特徴があるとのこと。外構と併せて設計されたものであるため、周りがすっかり壊された段階での外観の評価は難しい。図書館としてはその歴史と文化も含め十分に活用できそう。

C：事務所の建物はあまり迫力を感じませんでした。やはり、工場と木々の配置等、理想的な職場環境を考え設計された施設だと思います。事務所棟だけを評価するのは難しい。

C：残念ながら周囲を取り壊され、木々を伐採されポツンと残る建物はさびしそう。

C：壊すことなく、利用することを考えて欲しい。

C：敷地の外から事務所棟を見たので、詳しくみるができなかったが、外観は普通に

見えた。しかし遠藤さんからの話で設計の意図などの良さを知ることができた。

C：実際に見ることはできない状態だったこともあり、直接の評価はできませんので、仮の評価ですが、どのように評価（建築デザイン、建築史、歴史文化遺産、…など）するかを議論することが必要なように思います。

C：建具を修復すべき。

C：中に入っていないので分かりません。

－：離れた場所からの概観のみでしたので、今回は評価外とさせていただきます。

－：良くわからない。

## (2)旧平岡レース事務所棟の今後の活用についての提案、助言

○事務所棟だけでなく、土蔵、倉庫、樹木、庭園、食堂などと一体的な価値を有していたので、回りが解体されてしまって残念であるが、新しい図書館計画との整合性は保たれているということなので、飯能市の繊維産業の歴史を語る施設として、生涯学習に役立てられないか。また、敷地表側の立派な桜並木は、地域の景観として保存・活用すべきである。なお、建物の保存活用には、調査・補強・改修等に費用がかかること、一度行政が解体を決定していることから、保存に転じるには、多数の市民の声を結集したり、募金活動を始めることなどが必要だと思う。

○新図書館は既存建物をよけて設計されているとのことなので、この事務所棟は残しても支障はないはず。建築物は使用してこそ、のものなので、保存するだけでなく、資料館や休憩スペースなどとして活用してほしい。

○事務所棟の歴史と文化を活かした図書館施設としてはどうでしょうか。産業遺産の赤煉瓦倉庫を活用した東京都北区中央図書館の素晴らしい事例もあります

<http://www.city.kita.tokyo.jp/docs/service/272/027236.htm>。事務所棟を活用すれば新図書館の魅力に、そして飯能市街地の魅力になるはずです。

○初期の姿に復元し、飯能の山々と街中をつなぐ拠点にし、新図書館と共に飯能市の憩いの場にする。

○残しておいて欲しいです。

○この建物は現在の敷地にあってこそ、その価値を発揮する建物だと思います。敷地内に、従前の工場棟の配置を考慮して新設建物を配置し、遠藤新が思い描いた施設と環境との関係を再生し次の時代に引き継ぐべきではないでしょうか。

○市民と観光客との交流の場や歴史資料館としての活用

○できれば、新しく建設される文化施設とともに飯能の文化を支える役目を担ってほしい建築だと思います。周辺の緑化と併せて、趣きのある建物で過ごす事で、市民がひととき別世界へ行けるような仕掛けができれば素敵でなと思います。

○市役所とうまく協議・調整を重ね、保存（または移築）されることを希望します。「保存」から「解体」へ変わった経過が良く分かりませんでした。市民の皆さんとともに市役所と徹底的に議論すべきだと思います。

○建築家の名前が残る建物は貴重である。単に機能面からではなく、歴史と文化の保存も重要だと訴えたい。

○ハードとしての残すためには、ソフト面のしかけがあると良い。

○ただ残したいだけだったり、建物の魅力を伝えるだけでは説得力がありません。建築家など一部の好きな人間しかわからないので、そうではなく、この事務所をこう残せばお金が入る、利用できる、楽しい、・・・等の提案（プロデュース）が必要では。

○今回、久しぶりに概観を見て、非常に悲しく寂しい思いを感じました。また、胸がざわつくような大きな「違和感」も感じました。この違和感は何だろう…、とずっと考えていたのですが、遠藤現さんの解説を聞いて、納得することができました。「建て物は、エントランスからのアプローチも含めて設計です」この言葉をお聞きして、あの違和感は、門扉から見える景色、即ち、すべての木々を根こそぎ掘り返し、取り去ってしまった結果の情けない景観を見せ付けられた為だと理解しました。飯能市（長）は、飯能の「街づくり」を真剣に考えるべきです。事務所棟の今後の活用というより、これ以上、価値ある建造物を取り壊すのではなく、あの広い土地を、新しい図書館と歴史的建造物が共存できるように有効活用してほしいと思います。

○旧平岡レースのたてものがどういう意味を持っているのか、知らない人が多い。今回の市野先生の資料を読めば、壊すという選択はないと思う。なぜ一転して壊すことになったのには、疑問？耐震構造や、何か責任問題をのがれるような動きがあるのだろうか？

○遠藤新さんのお孫さんからお話を伺い、建物の真髄は内部空間にある、という気がします。別の場所に移してあの内部空間を多くの人に体感してもらえるといいのですが。

○旧平岡レースの建築は、事務所棟だけでなく、他の棟や緑の空間と一体のものだったと思われるので、この場所で建築単体として保存することには、こだわらない方がいいのではないかと。（仮に現地で残したとしても、新図書館の設計がこの建物の良さを本当に活かしたデザインになっているとは考えにくい。）移築することも含めて、広く市民から活用方策の提案を募り、建築関係者だけでなく、より多くの市民が、この建物をどうすれば良いのかについて考えることが重要だと思う。

○図書館にすることが決定されているのであれば、「事務所棟がもつ空間の良いところ」を取り入れた図書館を積極的に提案すべきだと思った。それが結果的に「残す」ことになるのでは。「残す」「壊す」の対立では、いずれ壊されると思う。同じ方向を向いて、空間のリノベーションプランを提示すべき。それには空間デザイナー等を参加させて、大きいプロジェクト化したらどうだろう。まちを元気づけるきっかけにもなるのでは。「残したい」というテーマでなく、「こんな図書館にしましょう」というテーマの方が人を引きつけると思う。せつかく、そのような建築があって、そこが図書館に変わるのであれば、そのストーリーは、この場所独自のものです。ぜひ生かしてほしい。なにか手伝えることがあれば手伝いたいです。

○建物の良さを市民の人に広く知ってもらおう企画をする必要がある。建物が仮に解体されるのであれば、復元し活用されることができるよう、建物の設計図、建築材料などを記録としてしっかり保存する。また映像（静止画、動画）としても記録する。

○建築単体というより、飯能という街で果たしてきた役割、出来事、市民の記憶などを含めて、街の歴史を伝える象徴として、他の建築物と一連のものとして復活（移築）する提案ができないものでしょうか。



#### 4 飯能中心市街地の今後のまちづくりへの提案

○飯能の持つすばらしい資源である自然（山、川）、産業（材木、繊維）、建物（町家、洋館）などの価値を市民自らが知り、探し出して磨きをかけることが必要であろう。魅力的な伝統商家は多いし、新しい店舗もできはじめ、学生のアートイベントも始まるようだ。今回のようなまち歩き活動を重ねたり、ひなまつりのような多くの商家が参加できるイベントを増やしていくのも一案である。全国一律の活性化対策でなく、地域固有の価値に立脚した活動こそが有効と思う。

○歴史を感じさせる建物など多くの文化資源、そして自然資源、おいしい食べ物。他の街がうらやましがるような財産をうまくネットワークさせ、「まち観光」「新文化人、新知識人の居住、文化発信」「情報産業などの新たな従業地」などということが考えられたら面白いですね。

○飯能の中心市街地は、かつて繊維産業で非常に繁栄していたとのことだが、今ではそのことがあまり意識されていないように見受けられる。市民によるワークショップとして当時の記憶を伝える建物などを確認し、可能なものは再生・活用することで、繊維の街としての飯能の歴史を「見える化」できるといいと思う。

○絹甚をはじめ歴史的建造物や近代産業遺産が点在していること、昔ながらの路地空間も残っていることから、各建物を店舗やコミュニティ施設、観光案内所等に活用しネットワークを図ることで、地域住民にも、観光客にも、魅力ある街にしていくことが重要。旧平岡レース事務所棟も新図書館とともにそのネットワークの中に組み込んでいくことで、街の魅力が一層高まるはず。

○旧平岡レース事務所棟を「壊す」、「残す」で活動している流れをどのように街に流していくかが課題だと思う。図書館建築での事務所棟の活用手法をシンボルマークにできれば、街の蔵も飯能ならではの再活用できるコンテンツに生まれ変わるのでは。

○市街地の近くに自然があり都心にも1時間。ロハス的な生活指向の方には魅力的なまちです。NPOが中心となり、歴史的資産を活用したイベント+周辺の畑と中心市街地の空家を再生した賃貸物件とをセットした生活の提案等々、いろいろな仕掛けが考えられそうな「まち」でした。

○シャッターの降りている空き店舗を観光案内所や朝市、学生参加の日曜日などに利用する。登山者と街の人との交流が出来る店があったら良いですね。

○今回、小学生以来の訪問でしたが、案外都内から近いことが実感できました。それで



いて、まちと山と川が接近していて、なんでもあるまちだと思いました。まち歩きと自然体験ができるなんて、なんと贅沢なところでしょう。市街地と自然をリンクさせた都心からの小旅行が、楽しめる企画ができたらいいいと思います。

○地元住民に古民家の良さ、歴史的な価値を認識してもらうこと。広い商業地域の見直し（容積率の引き下げ）。一般人に理解できる魅力づくり。（差し鴨居や小屋組、また障子、格子戸などの技術が素晴らしいのは建築屋として理解できますが、一般の人には価値が伝わらないと思います）

○飯能駅前の旧丸広跡地を有効活用するべきです。「人が集まる空間」「何度も来たくなる空間」を造ってほしいと思います。イメージとしては、蔵作りの建物や古民家を集めて、中まで見学できる。西川材を使った家の紹介、西川材を使って作品造りができる。古民家や蔵で食事ができる・古民家や蔵をライブやギャラリーとして利用できる。基本は、「もう一度訪ねたい」と感じてもらえる広場です。

○見えるかたち。残す意味をはっきりさせる。ただ歩いただけではわからないことが多い。市野先生や浅野さんたちの活動は意義があると思う。

○飯能で生活する皆さんが、まず自分たちのまちの良さに気づくことがスタートだと思います。市民を対象にした、街歩きなどを計画したらいかがでしょうか？

○長崎の「さるく博」<http://www.sarukuhaku.com/> を参考に人を呼ぶと良いのでは。

○まち歩きツアーを頻繁に行ったらどうですか。

○便利さと歴史的建造物の共存は難しいと考えるが、飯能らしさを後世に伝えることのできる街づくりを行って行って欲しい。

○飯能駅前を花で飾ってみて下さい。

○商店街及び駅から徒歩20分圏内の活性化。テーマ性を持った活性化。川越、横浜館内地区の例。駅徒歩圏内ににぎわいがないと、中途半端な街がダラダラ続くようになってしまう。

○まちの良さを知ってもらうためには、市野さんのようなまち歩きのガイドを養成する。お金をかけて、まちを整備しなくても、ガイド付きのまち歩きで多くの人に魅力を知ってもらう。街なかを歩いて、買物をしてもらうためにスタンプラリーをする。中心市街地で人が集まる滞留拠点をつくると訪れる人が増える。



## 5 アミーゴの評価(ABCD)と理由 AAAAAAB-[4. 7]

A：歴史的な繊維試験場の建物を文化施設として活用しており、建築的には少しやりすぎの面もあるが、全体として非常に良い空間となっている。また、NPOが役所的ではない発想で運営しているのがとても良い。

A：この地域の主要産業であった繊維工場を保存し、市民が利用できる施設に転用しているのは、土地の記憶の継承という点ですばらしい。また、建物自体も味わい深いし、内部や調度品、備品などをできるだけそのまま使う方法が、かつての空間の様子を思い起こさせて、実に上手い。運営方式も、あくまで芸術活動に限定するという理念を貫いており、それで高い稼働率を保っているのだから脱帽である。

A：元の建物の質もいいし、入間川沿いの環境も。さらに、文化面に的を絞った施設の運用方策も大いに勉強になりました。

A：建物をあまり手を加えないで、活用されているところが素晴らしい。多少不便さはあるが、利用者にその建物の歴史を感じながら利用することによって愛着が生まれると感じた。特にホールと庭が一体になっていて景観が素晴らしい。

A：文化を残す由緒ある建物が地域の人々に愛され使われ続けている好事例だと思います。運営に関っている方の能力が素晴らしいです。

A：近代産業遺産を市と地元 NPO が連携して活用しているお手本のような事例。のこぎり屋根の工場を活用したコンサートホールと入間川に面した緑地空間との関係が特に素晴らしい。

B：のこぎり屋根のコンサートホールはほどよい大きさと庭が眼前に広がるロケーションが最高。  
-：小学校を思い出させる木の椅子、木造の良さを活かした佇まいが良かったです。

## 6 その他、感想を自由記入

○飯能には初めて行ったが、旧市街は歴史を感じられる街並みがかなり残っていて非常に魅力的であるにも関わらず、東京方面にはほとんど知られていないのが意外です。山や川などの自然環境だ



けでなく、もっと旧市街地の魅力について情報を発信したほうが良いと思う。また、案内してくれた市野さんの説明がとても面白く、飯能の街歩きを十分に楽しむことが出来ました (K.T)。

○飯能の印象が一変しました。東京から近くて、山があり川があり、実は裕福なまちの資産が沢山残っている。「昔はよかったのに」と思うか、「そのおかげで沢山まちに財産が残っている」と考えるかで、まちへ対する思いも違ってくると思います。よいものを沢山お持ちの飯能ですので、ぜひキラリと輝くまちを作ってください (Y.Y)。

○まったくの私見 (独断) ですが、飯能は他所から行きにくい。交通の便もそれほど良いとはいえないし、どこかに行く途中に立ち寄るという位置にもない。もし観光で身を立てるなら、他所からわざわざ飯能まで来てもらうための魅力 (特色) を打ち出さないとならない (H.T)。

○まず、市民が飯能の良さを知ることが大切なんだと教えてもらいました。生活している人がいない建物の寂しさを感じました。山の木と今ある財産を活用し、本当の「森林文化都市」に！ (K.M)

○平岡レースは、内部を見学できなくて残念でしたが、最後に現さんのお話が聞けて、とても参考になりました。「エントランスからのアプローチも設計のうち」という言葉が非常に印象に残りました。これから建物を観るうえで参考にします。市野先生の熱意ある説明、本当に心を打たれました。最後の感想で、お聞きした意見も非常に参考になりました。地元に住るとなかなか気づきませんが、まだまだ残すべき建物が多いことに改めて気づきました。また、「飯能の街中には、やたらめたらマンションが多い」と感じた方のご意見など、ぜひ事務局様から市へ提言してほしいと思いました (N.N)。

○飯能の商店街を見ていると、後継者のないお店がある。今の店主さんがお店をやめたところでシャッターになるのはもったいない (N.T)。

○建築士事務所協会の皆様の活動には頭が下がる思いです。まちづくりの輪が広がるように、これからも情報発信をお願いします (O.S)。

○10 数年前、飯能に勤務する機会があり、今回、久しぶりに旧市街地を訪れ、街だけでなく、お世話になった方々にもお会いでき、実り多い街歩きでした。かつて街の中をくまなく歩いたつもりでしたが、新たな発見の連続で、不明を恥じるばかりです。これからは山登りだけでなく、街歩きでも飯能を訪れるようにします (T.S)。

○テンポの良い知識豊かな解説により、楽しく、ためになる半日を過ごすことができ、大変有意義なものとなりました。関係者の皆さんに深く感謝申し上げます (H.H)。

○飯能の市街地に多くの地域資源があって驚きました。市野さんの丁寧な説明と歩いたことで、飯能の魅力を強く感じる事ができました。このような機会に参加できて大変

感謝しています (M.T)。

○市野さんのガイド、素晴らしかったです。とても楽しい「まち」歩きができました。これだけのストック（建物、自然、物語、人）があるのですから、まちの雑誌（地域雑誌谷根千、川越の小江戸ものがたり）、や「まち」歩きガイドブックは、直ぐにでも出来そうな感じがしました。今回参加できなかった割烹料理店八千代での懇親会、是非企画お願いします (I.Y)。

○もっと歩いている途中で商店街で食べ歩きしたかったです。

○飯能は何回か訪れたことがあるはずですが、街を歩いたのは初めてです。とても面白かったです。町家や蔵、洋館がたくさん残り、その多くが今も使われており、飯能の文化性の高さを感じました。宮尾さんご推薦の河原を眺めながらの「すい〜とん」も妙味でした。そして、市野さんの知識と情熱には敬服しました。まち歩きガイドの理想型ですね！ 懇親会の八千代も味がありました。また、午前中の入間アミーゴ！では、歴史的建物の活用や公共施設の運営について、澤田さんから多くを学ぶことができました。古里さんには、このような盛りだくさんの企画のコーディネートをありがとうございました。こうした街のすばらしさは、一人一人の頑張りとその連帯から生まれるのだと思います。なのに、大切なすばらしい建物を保存できないのはなぜでしょうか……。

飯能の今後のまちづくりに期待し、次に訪れる時を楽しみにしています (O.R)。

○飯能の街のこれほどの魅力がなぜ知られていないのか（私が知らないだけか）？江戸時代からの繁栄の歴史、記憶を残す建物があり、街を愛する方々がいて、優れたマップや雛飾りのイベントもあるのに…。商店街や市民の皆さん、市がもっとテーマに磨きをかけて街の良さを売り込んで欲しいです！当日、熱心にご案内いただいた現地の皆様、コーディネートの古里様、ありがとうございました。今後の飯能に期待しております (G.Y)。

#### (コーディネーターより)

○飯能旧市街地歩いた参加者の評価点は3.8と昨年の本庄旧市街地の2.9、一昨年深谷旧市街地の3.2に比べても高く、多くの方から歴史的資源が思った以上に多く残っていて、絹甚などその活用が始まっていることへの高い評価をいただきました。これも案内いただいた市野さんの名調子の説明力によるところが大きかったと思います。旧平岡レース事務所棟については、内部見学ができなかったため十分な評価をしていただくところまではいきませんでした。貴重な近代産業遺産として活用すべきとの多くのご意見をいただきました。お隣の入間市の文化創造アトリエアミーゴは、こうした近代産業遺産の活用事例のお手本として、高い評価を得ています。今回のまち歩きが、飯能の地域資産の良さに互いに気付き、気付かせるという、気付きの連鎖をつくることになればと願っています。最後になりましたが、今回の企画にご協力いただいた地元商店街の吉田さん、井上さん、当日ご案内、ご説明いただいた市野さん、遠藤現さん、浅野さん、昼食会場をご案内いただいた宮尾さん、その他関係者の皆様ありがとうございました (古里実)。

